

【白塔歌仙会第四五四回六月々例会】「田植え唄」の巻

畔と田で響き交わせる田植え唄  
笈羅 恆雄

編笠脱いで仰ぐ大空  
悦子 七緒

縄綱いは父祖伝来の匠にて  
和子 果穂

館も求肥もあの菓子司  
恆 笈

手土産は「アフター・エイト」宵の月  
七 悦

初秋の花嫁角隠しする  
恆 笈

振袖にひろがる花野ほの明く  
七 悦

これで会えると八百屋の娘  
和 果

身代わりの袈裟を殺めて出家する  
悦 七

旅の琵琶弾き語る顛末  
果 和

道端の自然の摂理にふり替える  
恆 笈

蠟石で描くまあるい地球  
七 和

裏側も探られる世や冬の月  
恆 笈

乙子の朔日鉱泉みつけ  
七 悦

さあ遊ば鬼ごっこだの隠れんぼ  
笈 恆

憧れてるのゼロゼロセブン  
和 果

花見舟推しの話も面白く  
悦 七

紳士の皆様陽炎座へと  
恆 笈

影朧ろサラサーテの盤に針落とす  
和 果

嗚咽を漏らす亡き友の妻  
悦 七

黙って食べるおむすびを焙じ茶と  
恆 笈

助っ人さんが猿やっつける  
悦 七

八つ橋が繋ぐ彩り菖蒲園  
和 果

パラソル点々散策びより  
恆 笈

躓いて寝たきりになる粗忽者  
七 和

終の褥に初恋の夢  
恆 笈

煙草屋の看板に惚れ横丁へ  
悦 七

俺のお宝プラモデルバイク  
和 果

淡き月後姿の猫の毛並  
悦 七

むかご飯焚きふるさとと思う  
恆 笈

砧打つ音も間遠にやがて已み  
和 果

薄らぎ行くかこの悲しみも  
悦 七

泣きぼくろ忘れがたみの彼女とか  
恆 笈

チョコの家にもブランコあった  
和 果

もちよった筐をひろげて花の宴  
悦 七

御苑の池に蝌蚪泳ぐころ  
七 悦

連衆・笈羅、恆雄、悦子、七緒、和子、果穂。  
令和六年六月一日首、令和六年六月十二日尾（文音）